

ユースケース作成における課題等について

- 今回のユースケース作成において認識した課題等として、以下が挙げられる。
- こうした課題の多くは事業者における実際の適用においても想定されるものであり、今後の検討を通じて、適用プロセスや手法等における改善が望まれる。

1

全般

- ✓ IoT-SSFに示された考え方/枠組みと既存のガイドライン/手順(例：ISO 31000, IPA分析ガイド)等との整合には課題が残っていると考えられる
- ✓ 対象システムが新設であるか既設であるか等の設定の違いにより、検討プロセス等にどのような影響が生じるか判断が容易でない

2

事前準備

- ✓ 対策を担う、あるいは被害を被り得るステークホルダーとしてどこまでを含むかの判断が容易でない
- ✓ 今回は全てのケースでリスクの程度を測る際に共通の尺度を用いたが、通常業種やサービス内容によりリスク基準等は異なり得るものであり、それらの多様性の検討が課題として残っている

3

リスクアセスメント

- ✓ 対象システムにおいて生じ得るインシデントとその影響に対する評価の結果が評価者により変動し得る
- ✓ 今回はIoT-SSFとの整合を図る観点からスキップしたが、「起こりやすさ」の扱いについては課題が残る
- ✓ リスクシナリオの網羅性、記載粒度について、どこまで深く検討すればよいか不明確になりやすい

4

リスク対応

- ✓ 対策の優先度設定が容易でない(想定効果や導入容易性が考慮され得るが、事前の対策の効果測定は困難)
- ✓ 結果として、適用主体が何をどこまで対策すればよいのか(または、関係主体にどこまでやってもらえばいいのか)が不明確になりやすい